

# 子どもの「命」の守り方

変える!

事故予防と  
保護者・園内コミュニケーション

事故予防の理解が変わる!

リスク・マネジメントを変える!

コミュニケーション・スキルがアップする!



子どもの「命」の  
守り方  
変える! 事故予防と保護者・  
園内コミュニケーション  
掛札 逸美 (著)  
A5判 / 196ページ  
ISBN978-4-87168-572-6  
定価  
本体価格  
**1800円**+税

— 目次 —

- 第1章 保育における「安全」をめぐる
- 第2章 「深刻さ」を的確に把握するための視点
- 第3章 保育施設におけるリスク・コミュニケーション
- 第4章 すべての基礎、園内コミュニケーションをつくる
- 第5章 リスクを伝え、保護者と園のリスク意識を育てる～「育ちに必要リスク」を積極的に言っていくために～



掛札逸美

ご注文は、お近くの書店・販売店へ

エイデル研究所 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-9  
TEL.03-3234-4641 FAX.03-3234-4644

注文書	取扱店	注文数	子どもの「命」の守り方 掛札 逸美 (著) 変える! 事故予防と保護者・園内コミュニケーション	
		部	本体価格1800円+税	ISBN 978-4-87168-572-6 C3037
	氏名 / 団体名			
	住所 〒			
TEL				

# 目次

## 第1章 保育における「安全」をめぐる

子どもの命を守ることは、おとなの責務

3つの「深刻さ」

- (1) 命が奪われる深刻さ
- (2) 社会的責任の深刻さ
- (3) 対保護者の深刻さ

保育施設で意識されやすいできごと

保育施設で意識されにくい、そして命を奪っているできごと

## 第2章 「深刻さ」を的確に把握するための視点

事故とは？ ヒヤリハットとは？

- (1) 事故 (accident)
- (2) 事故の結果
- (3) ニア・ミス (near-miss) とヒヤリハット
- (4) 保育におけるヒヤリハットの難しさ

事故の結果は介入と運 (確率) に左右される

- (1) 事故は、「～か～か～か」のプロセス
- (2) 分岐点で必要な判断と行動
  - a. 「命を守ること」が主体の場合
  - b. 保育と安全のバランスを考える場合
- (3) 「予測される最悪の深刻」を考えて、分岐点の行動をする
  - a. 食物アレルギー
  - b. 誤嚥 (窒息)
  - c. 睡眠中の突然死
  - d. プール事故
  - e. 置き去り (取り残し)
  - f. 車道への飛び出し
  - g. 遊具の高い場所からの転落

人間はミスをする生き物

- (1) 子どもは異文化。事故は予防できない
- (2) 「ミスをなくす」ではなく、「ミスを減らす」「ミスに気づく」
- (3) 「人間は見守れない、気をつけられない」が大前提
- (4) 「これなら絶対に安全」「大丈夫」はない

「悪意」がなくても、過失に問われる可能性がある

- (1) 予見可能性と回避可能性
- (2) 「知らなかった」「大丈夫」ではすまされない
- (3) 白玉誤嚥と「トカゲのしっぽ切り」
- (4) プール事故と保護者への「サービス」

リスクとハザード

- (1) リスクとハザードの誤った定義
- (2) リスクとハザード、正しい定義
- (3) 子どもに危害が起こる確率を下げて、リスクを下げる
- (4) リスクとハザードの概念を活かす

## 第3章 保育施設におけるリスク・コミュニケーション

保護者とのコミュニケーションが子どもの命を守り、  
保育者の心と仕事を守る

リスクをゼロにできない以上、  
リスク・コミュニケーションは不可欠

「安全」と「安心」の違い

- (1) 安全は具体的につくるもの、つくれるもの
- (2) 安心は安全の上に築きあげていくもの
- (3) 幻の「安全・安心」を捨て、「生きる力」を

リスク・コミュニケーションは組織に必須

質の高いリスク・コミュニケーションが「安心」をつくる

信頼関係があれば、クライシスを乗り越えられる

リスク・コミュニケーションの例

『入園のしおり』でも、しっかり伝える

保護者の意見を聞くリスク・コミュニケーション

深刻な事故から学ぶリスク・コミュニケーション

保護者の不安をしっかりと受けとめる

保護者の不安を積極的に汲みあげる

事実が伝わるように伝える

保護者のリスク判断スキルを育てる

## コミュニケーション・スキルアップの 各種のワークやコラムも掲載！

★リスク・コミュニケーションの7原則

★自分の感情に気づく

★今日からできる園内ワーク

- ① 電話のワーク
- ② 名前を呼ぶワーク
- ③ 楽しい話を聞くワーク
- ④ 子どもや保護者に対する声かけをチェックしあう

★「盗んで覚える」は、意識できない人の言い訳？

★否定語をやめる

★小テーマの例

## 第4章 すべての基礎、 園内コミュニケーションをつくる

コミュニケーションの前提＝「簡単には伝わらない」

コミュニケーションはリスク・マネジメントの基礎

職員は、上の人が「していること」を真似する

「わかったつもり」「できたつもり」はスキル習得に通用しない

「上に立つ人」のための園内コミュニケーション・スキル

- (1) コミュニケーションはゴールのある戦略
- (2) 一人ひとりに合わせる
- (3) コミュニケーションは、自身の感情に気づくことから
- (4) 言ってもらえる自分になる

「私」の心と仕事のため、安全をつくり、保育の質を上げる  
保育施設の中にはたくさんの壁がある

- (1) 年齢と経験
- (2) 立場、資格、子育て経験
- (3) 職種の違い

「わかった？」のひと言が生み出す厚い壁

「わからない」と言ってもらおう大切さ

「わからないこと」がわからない！

「わからなくて当然」を前提にして

アドバイスされる側のコミュニケーション・スキル

「違う見方や意見」を学びたい、ところが実際には…

「保育園看護師」という異文化

自分とは違う見方や違う意見を

「違っていても、おもしろい」と受けとめる

大切な専門職「保育園看護師」を活かす

考える、言葉にする、思いをやりとりする

～さまざまな壁を乗り越える、大きなワーク

「みんなで話す」ワーク

他の人から学び、ゴールを考える

- (1) 目的は学ぶこと。勝ち負けではない
- (2) 過去と解決策を分ける
- (3) 「どうすればいいかな？」と考える

話し合う時のルール

- (1) 時間とグループを設定する
- (2) 話題を決める
- (3) 「司会のような人」を決める
- (4) 沈黙を怖がらない
- (5) 長く話さない
- (6) 話に割り込まない、話を奪わない
- (7) テーマと違う話を始めない
- (8) 「私」「僕」を主語にして話す
- (9) 聞き方のポイント
- (10) 参加者が感情的になったら

たとえばこんな意見も…

## 第5章 リスクを伝え、 保護者と園のリスク意識を育てる

～「育ちに必要ないリスク」を積極的に言っていくために～

リスクを伝え、共に考え、「子育てを自分ごと」に

共感を失い、事故の被害者を責める文化

「リスクを冒す権利」と「保護者に伝える義務」